ワークショップの進め方

資料5

□今回は、課題ツリー・仮説ツリーを援用し、領域ごとの課題構造／KPIを設定

□ワークショップ形式を採用し、かつ、参加者が複数の領域で発言できるような仕組みで実施。30～40人（５人×８グループ）を設定。

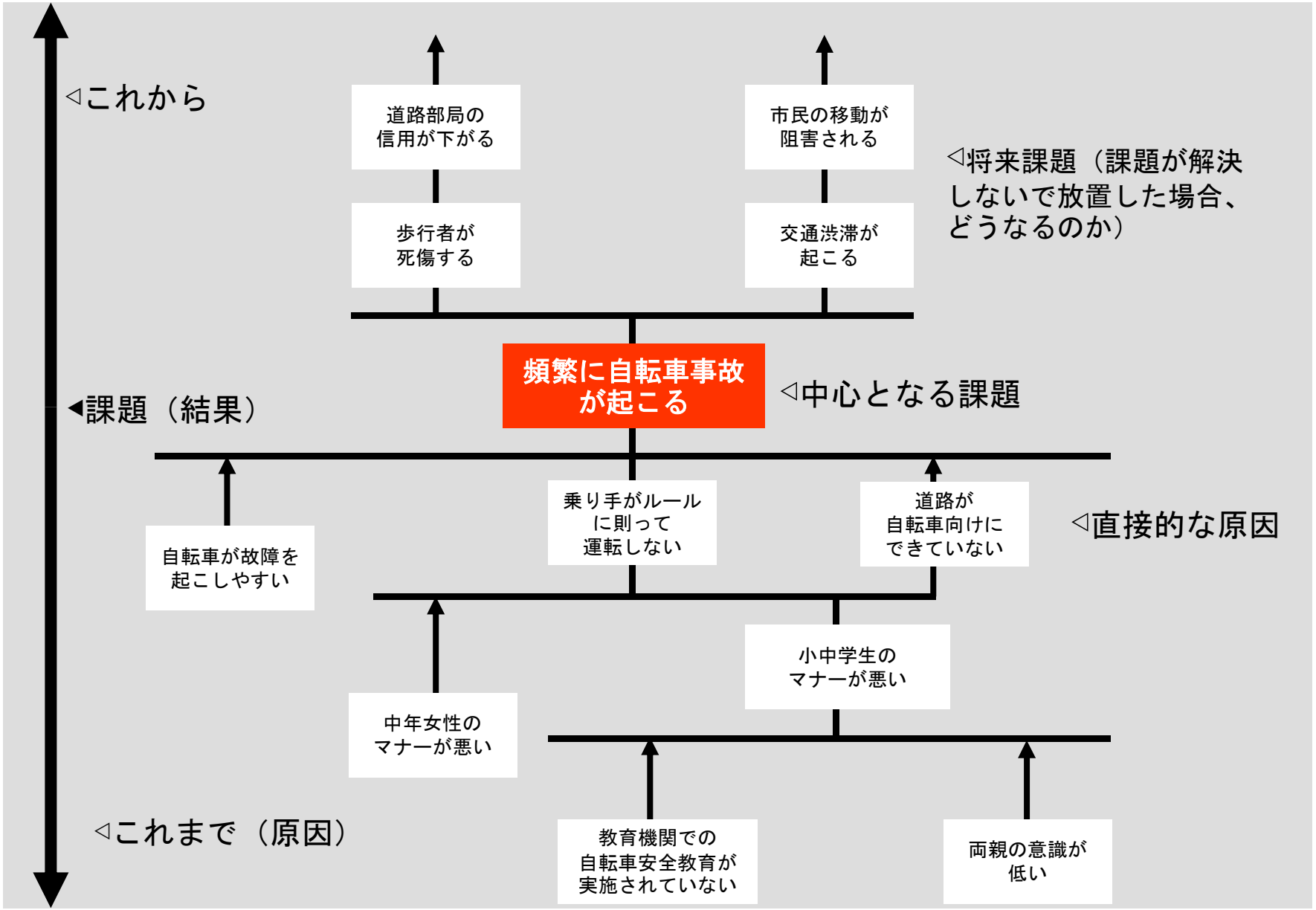
■課題ツリーでは、中核となる課題を設定し、課題を引き起こす原因と結果をツリー形式で検討

■仮説ツリーでは、中心となる目標を設定し、目的を実現できるための目的と手段（施策・事務事業）を検討

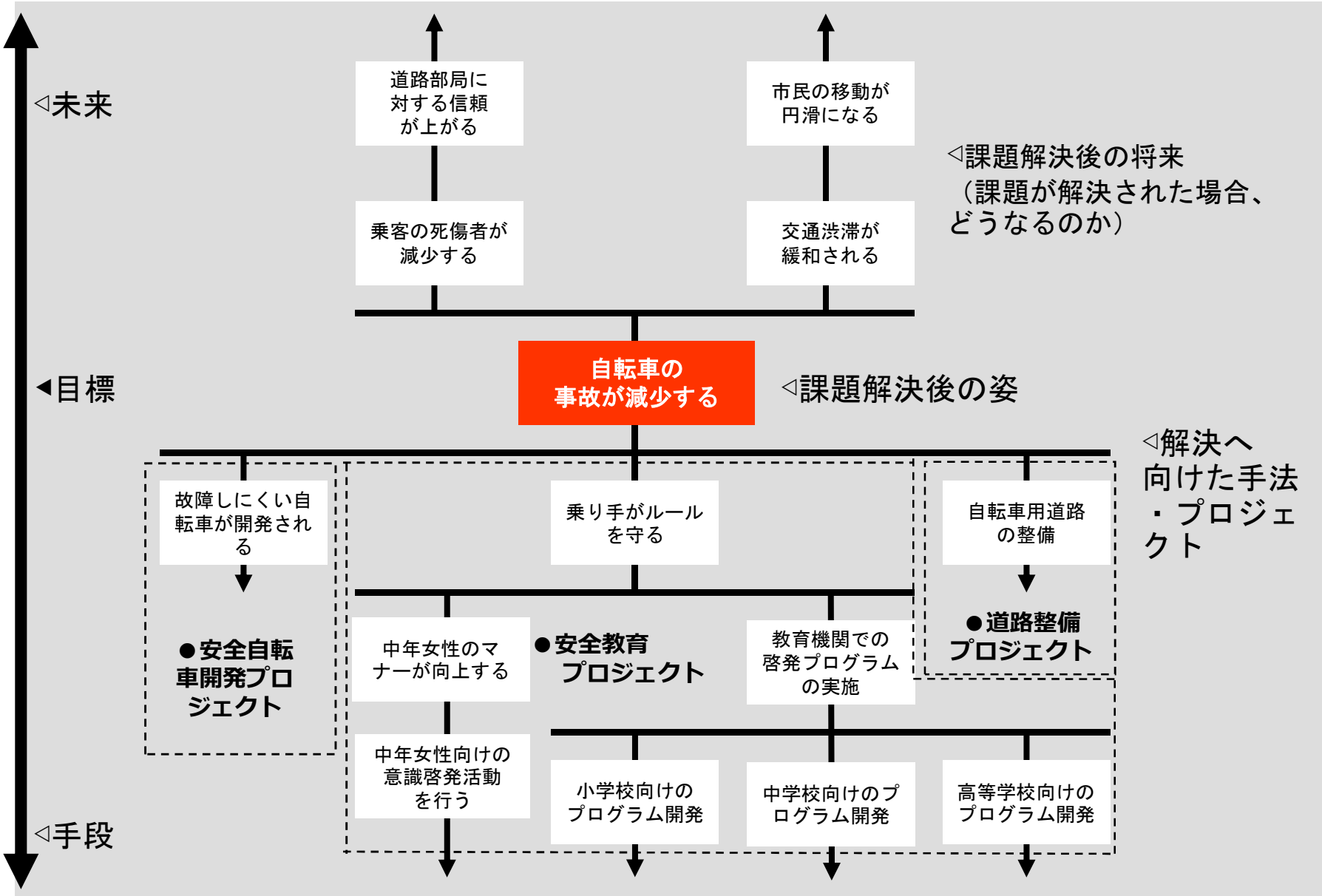
□KPIを複数設定することで、事務事業評価との連携強化

□全ての要素をデータ、担い手でバックアップの実施

地域政策での事例　～　自転車事故頻発の課題ツリー



地域政策での事例　～　自転車事故頻発の仮説ツリー



領域ごとのまとめ方（全体）

□施策・事業配置表で整理
□KPI・投入資源・事業の段取りなどを一覧にして整理

達成すべき目標

KPIの設定

目標達成へ向けた施策・事業

連携する団体・個人

プロジェクトの要約	指標	指標の入手手段	外部条件
上位目標 1　のびのびと心豊かな子どもが育つ 2　子どもの虐待が減る		調査	
プロジェクト目標 子育てに喜びを感じる親が増える		乳幼児健診問診票	
成 果 1　親の子育ての力が身につく 2　相談・支援する人がいる 3　子どもの健康への不安のサインをキャッチする 4　心にゆとりのある親が増える	1 両親教育を行っている産婦人科医院の数が増える 2 子育ての協力者がいると答える親が増える 3 育児支援に重点をおいた乳幼児健診を行っている 4 リフレッシュする時間があると答える親が増える	調査 乳幼児健診問 市町村母子保 調査	
活 動 **1 親の子育て技術が身につく** **1-1 子育ての知識・技術が身につく** 1-1-1 ふれあい体験学習 1-1-2 すべての産婦人科、助産所での教育を拡充（両親学級） 1-1-3 総合学習の充実 1-1-4 教育・保健・福祉の連携強化 **1-2 子育て情報が活用できる** 1-2-1 子育て情報支援センター（仮称）の設置 1-2-2 マスメディアによる正しい情報の提供 1-2-3 子育てに関する制度のパンフレットを作成する **1-3 母性父性が身につく** 1-3-1 すべての学校で若年妊娠の事例学習を行う（教材：もし私が妊娠したら・・等作る） 1-3-2 継続的な学習の実施 **2 相談・支援する人がいる** **2-1 夫がよく支える** 2-1-1 夫の育児参加に企業の理解がある 2-1-2 優良企業を表彰する	**2-2 専門機関の支援が充実する** 2-2-1 保育所を支援機関として位置づける 2-2-2 保育所の地域解放を促進する 2-2-3 子育て情報支援センター（仮称）設置 2-2-4 24時間相談体制 2-2-5 専門機関同士のネットワーク構築 **2-3 地域の支援がある** 2-3-1 育児サークルのリーダー研修 2-3-2 育児サークルへの参加を促す 2-3-3 公民館・児童館の活用 2-3-4 世代を越えた交流ホーム 2-3-5 子育て支援ボランティアの育成 2-3-6 子育て支援センターの活用 2-3-7 利用機関の広報の強化 2-3-8 ファミリーサポート（有償ボランティア）制度の活用 2-3-9 民生児童委員が相談にのる 2-3-10 親の出産・病気などの時に子どもを短期間預かる制度の活用促進 2-3-11 シルバーグループによる子育て支援 **2-4 家族の協力がある** 2-4-1 父親が家事・育児に参加することに祖父母が理解を示す	**3 子どもの健康へ　サインをキャッチする** **3-1 健康に　て専門的支援ができる** 3-1-1 乳幼児健診の活用 3-1-2 健全育成相談（性格行動相談）の活用 3-1-3 地域療育支援センターの活用 3-1-4 育児講演会（保育所、行政）の開催 **3-2 その子らしさをわかってあげる** 3-2-1 乳幼児健診で親も子もありのままを認める（まるごと受容） 3-2-2 障害も含めて個性として認めサポートの仕方を教える **4 心にゆとりのある親が増える** **4-1 リフレッシュできる時間が持てる** 4-1-1 一時保育の活用 **4-2 経済的不安があってもゆとりが持て** 4-2-1 福祉制度の適用が受けられる **4-3 支援が必要な親もゆとりが持てる** 4-3-1 保育所の活用（親が病気のとき、していなくても入所できる） **4-4 職場が子育てに配慮する** 4-4-1 育児休暇の活用促進	**入** 関係者 児童相談所 市町村保健センター 学校 精神保健福祉センター 保健所 福祉事務所 警察 医療機関（産婦人科） 助産所 保育所 地域（近所、家族） 母子保健推進員 民生児童 育児ボラ 育児サー 弁護士

出典　健やかおきなわ2010